高知精神保健

発行所　高知市丸の内1丁目2－20
高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内
高知県精神保健福祉協会
電 話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@outlook.jp
発行人　數井　裕光　　編集人　諸隈　陽子

第293号

第65回高知県精神保健福祉大会

地域と共に歩む精神保健福祉
～高知大学の取り組みとこれから～

第65回精神保健福祉大会アンケート



実行委員長
高知大学医学部精神科
助教　赤松　正規

第65回高知県精神保健福祉大会は、2026年10月21日㈬13時～16時、新来島高知重工ホール（高知県立県民文化ホール）で開催いたします。今回のテーマは、「地域と共に歩む精神保健福祉　～高知大学の取り組みとこれから～」とさせていただきました。

“精神保健福祉”と聞くと、精神疾患のある方に対する医療や福祉サービスを思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし、精神保健福祉が目指すものは、それだけではありません。子どもから高齢者まで、すべての人のこころの健康を守り、その人らしく尊厳をもって暮らし、地域社会に参加できるよう支えるための幅広い取り組みを意味します。

私たちは誰でも、学校や職場、家庭での人間関係、病気や介護、生活上のさまざまな変化によって、こころの不調を経験する可能性があります。令和６年版厚生労働白書でも、「こころの健康と向き合い、健やかに暮らすことのできる社会に」がテーマとして掲げられました。こころの健康は、一部の人だけに関係する問題ではなく、すべての県民にとって身近で大切な課題です。

誰もが安心して暮らせる社会を実現するためには、医療や福祉の専門機関だけでなく、地域、学校、職場、行政、そして県民一人ひとりが、こころの健康について理解を深めることが大切です。また、精神障害の有無や程度にかかわらず、必要な支援を受けながら地域で自分らしく暮らせるよう、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を充実させていくことも欠かせません。

私が所属する高知大学医学部附属病院は、診療を担う医療機関であると同時に、将来の医療を支える人材の育成や、より良い治療・支援につながる研究を行う機関でもあります。こころの健康を守るため、診療、教育、研究、地域連携など多岐にわたる活動を行っています。一方で、「大学病院は敷居が高い」「どのような活動をしているのか分かりにくい」と感じている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

今回の大会では、高知大学医学部附属病院が取り組んでいる精神保健福祉に関する活動を、県民の皆様に分かりやすくご紹介します。同時に、事前アンケートを通して寄せられた「大学病院に期待すること」や「地域で必要とされている支援」についても取り上げ、県民の皆様の声を今後の活動につなげる機会にしたいと考えています。

こころの健康に関心のある方、ご自身やご家族のことで考えていることがある方、医療・福祉・教育・行政などに携わっている方をはじめ、どなたでもご参加いただけます。本大会が、こころの健康について考える機会となり、高知県の精神保健福祉をより良いものにしていくための第一歩となれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。大会のための事前アンケートにもぜひご協力ください。宜しくお願いします。

目　次

第65回高知県精神保健福祉大会（案内）…… 1
会員様施設の活動紹介「みかんの丘あけぼの」…… 2
「シェアHappyこうち」を開設！…… 3
ノウフク連載【漁業の町・室戸市が挑んだ水福連携の道のり】… 4
出張講座のご案内…… 5
第65回高知県精神保健福祉大会 …… 6

「精神保健」施設紹介～活動紹介･商品紹介　2026.8

社会福祉法人土佐あけぼの会　みかんの丘あけぼの　管理者　野村みちよ

＜活動紹介＞



施設外観

社会福祉法人土佐あけぼの会は精神障害のある方が住み慣れた地域で安定した暮らしができるようにとの思いで設立し、地域生活支援を行ってきました。福祉的就労の場の提供と一般企業就業へのステップアップをサポートする就労支援において、就労意欲はあっても効率面で一般就業は困難な方や相談体制があれば就労継続ができる方等Ａ型事業へのニーズが見えてきた2011年、高知県精神保健福祉基金（精神保健福祉協会基金事業）の助成を受けて、県外Ａ型事業所の視察調査を行いました。この調査を踏まえて2013年４月に小さなＡ型事業所（定員10名）みかんの丘あけぼのは開所しました。調査から得られた事業目標は、福祉サービスでありながら最低賃金を保障する事業であり、経済社会の経営思想を重視しつつ障害特性に応じた支援を行い、更には一般企業へつなげることを目標としました。

事業内容は高知県産青果を使い体に優しい菓子の開発、製造販売を行ってきました。開所から７年間は収支赤字が膨らみ、精神保健福祉協会のサポート基金をフル活用させていただきました。2020年から多機能型（Ａ型とＢ型20名）に事業を拡大し雇用人数を制限することで黒字経営に転換し、2023年には目標売上2,000万円を達成しました。開発、営業、イベントやギフト販売等10年間の職員と利用者の努力はもちろん、小売、卸売業者様と共同開発したヒット商品が生まれたことが大きな要因でした。個人的には2024年に念願の社員旅行に行けたことが一番の思い出です。


こだわりやのお菓子

昨年は菓子製造販売に利用者17名が従事し、軽作業を希望する８名は青果仕込みや山北みかん･ししとう等の包装、ラベルはり、施設外就労等に従事しました。13年間続けたＡ型ですが、昨今の最低賃金引き上げ等の諸事情により開所当初の思い半ばにして2026年３月末で廃止となりました。精神保健福祉協会様から資金面で長くサポートしていただき、改めて感謝申し上げます。今後はＢ型で菓子事業を引き継ぎます。


ドーナツ製造

＜商品紹介＞

国産の小麦粉、米粉、菜種油、粗糖、バター、卵をベースに、さつま芋、トマト、ニラ、ピーマン、なす、かぼちゃ、たまねぎ、生姜、栗、ゆず、山北みかん、レモン、小夏、梅干し、ハーブ、茶葉、かちり、酒粕…いろいろ作ってきました。ヒット商品は「平飼い卵と米粉の焼きドーナツ」で、売上の９割を占める県外卸売の７割がこのこだわりやドーナツです。県内では唯一ダイキ野市店産直市で訳あり商品を販売しています。地域連携で商品開発した、酒粕クッキー（砂糖不使用）、山北みかんのソフトクッキー（皮まで丸ごと入った米粉クッキー）、紅はるか焼き芋のスティッククッキー（芋、米、卵白、粗糖、塩のみ）がおすすめです。県内では、近隣の施設や学校への訪問販売が利用者の楽しみとなっています。季節の食材を使用したプリンやロールケーキ、パウンドケーキが人気です。小売店や卸業者、近隣の生産者、そして利用者と職員で協力しながら、焼き菓子好きの心をつかむ高知らしい菓子づくりは今日も続いています。


クッキー製造

障害のある方の「働く」と社会を繋ぐECサイト「シェアHappyこうち」を開設！

高知県社会就労センター協議会　西本　満男





高知県社会就労センター協議会では、県の協力を得ながら昨年度より開設準備を進めていました、就労支援事業所の商品を紹介・販売するECサイト（オンラインストア）「シェアHappyこうち」を、本年８月７日㈮に開設いたしました。

本サイトは、就労継続支援事業所で働く障害のある方が、素晴らしい技術とこだわりで製作した商品を全国へお届けするプラットフォームです。サイトで購入していただくことは、働く人たちの大きなやりがいや自信に繋がるとともに、その“Happy”が新たな商品や活動への原動力となります。商品をつくる人と手にする人が“Happy”をシェアして幸せの輪を生み出し、その輪を社会全体へ拡げていくことが、私たちの目指す姿です。

高知県内には約150の就労継続支援事業所があり、約3,000人の方がそれぞれの事業所で働き、日々さまざまな商品やサービスを生み出しています。「シェアHappyこうち」は、こうした多くの事業所と、そこで働く方々の想いを受け止めて開設したサイトです。一人ひとりの「働きたい」「誰かに喜んでもらいたい」という想いを大切にし、その仕事の価値を社会へ届ける架け橋となることが私たちの願いです。

サイトのロゴマークは、県内の就労継続支援事業所の利用者が制作しました。ロゴには、事業所、購買者、社会全体の幸せをハートの形で表現し、その幸せが循環することで巡り巡って自分の幸せになる、一人の幸せがみんなの幸せに繋がるという、制作者の温かい思いが込められています。

また、開設にあたっては、すでにECサイトを運営されている「特定非営利活動法人とくしま障がい者就労支援協議会」様からアドバイスをいただき、当協議会としてのカラーを出すための工夫を全員で検討してきました。特に意識したのは、顧客目線に立った「マーケットイン志向」での対応でした。単に商品を販売するだけでなく、当協議会でしかできないオンリーワンの品質やサービスを提供し続けるサイトでありたいと考えています。

そのための体制として、お客様への問い合わせには関係者全員が対応できるよう「対応一覧表」を整備したほか、受注や出荷の役割分担を明確にし、工程ごとの手順書を作成いたしました。業務の見える化を図り作業品質とサービスの向上を徹底し、顧客感動に繋げていきたいと考えています。

スタートアップ商品として、大人気絵本「パンどろぼう」の作家 柴田ケイコさんから提供をしていただいたキャラクターで制作したグッズ「NAKAYOSHI MOLIMOシリーズ」の販売を開始いたしました。今後は、県内の就労支援事業所の商品を順次追加していく予定です。

就労支援事業所から寄せられる期待を受け止めて開設したこのサイトを、常にワクワクやドキドキを提供できるプラットフォームとして大切に育てていきたいと思います。ぜひ一度サイトをご覧いただき、皆様の温かい応援をよろしくお願い申し上げます。

シェア Happy こうち

ノウフク連載
【漁業の町・室戸市が挑んだ水福連携の道のり】

室戸市保健介護課健康推進班　保健師　森川　奈緒

１．室戸の障害福祉の現状

本市では、障害や生きづらさを抱える人の就労先の確保や、就労継続支援Ｂ型作業所が１ヶ所のみで選択肢が少ないことことが課題でした。そのため、令和５年度より安芸市の農福連携の取り組みを本市でも取り入れるべく、就労支援部会にて協議を進めてきました。

その中で、当時、県の職員であった現 芸西病院地域生活支援室長 公文氏から、市民の障害への理解が広まれば農業に限らず「仏福、炭福」等、様々な分野で連携ができることを教えて頂きました。

同年11月には「農・林・水産業＋@福祉との連携サミット」を開催。市広報、商工会、卸売業者等、幅広く広報活動を行ったところ、市内外から88名の参加がありました。ところが、市民の参加は１名のみであり、福祉に関心さえ持ってもらえない現状にハードルの高さを感じました。

２．水福連携の課題と解決に向けて

水福連携に着手したのも、公文氏の働きかけで高知県室戸漁業指導所や水産業振興課の方々が部会へ参画したことがきっかけでした。

まず、水福連携の課題として、軽作業やコンスタントに仕事量を確保できる作業が少ないこと、対策として、作業工程を細かく洗い出す必要があることを共有。令和６年には、県が企画した水産事業者視察会に参加。しかし大敷の網の修繕作業は熟練の技、水産会社の鮮魚出荷の荷造り作業は分担制で素早さが必要でした。そのため再度、作業行程を細かく聴取したところ、荷造りに使う段ボール箱折をご提案頂きました。



早速、就労継続支援Ｂ型作業所むろとうみがめとのマッチングを行うために体験会が開催され、無事、水産会社と作業所の委託契約が締結されました。作業所職員からは「水福連携を通して施設外で地域の人と働くという選択の幅が広がったのは大きい。利用者も地域の人と対話でき、気分転換になっている。」とのお声を頂きました。

ちょうどその頃、県の地域支援企画員の仲介で、新たに金目鯛の加工業を開発したばかりの企業が障害者の雇用を考えている、との話しが舞い込んできました。保健師間や他機関にも問い合わせて候補者を洗い出す一方で、作業工程が「魚をさばく、バーナーで焼く、真空パック詰め等」とスキルが高く、もしマッチングが不成立になると次に続かないのではないかという不安もありました。

３．県の伴奏支援で実った雇用成立

ここで大変役立ったのは、県の就労体験拠点設置事業・実践能力習得訓練です。

約10日間の体験と２ヵ月間の訓練期間を経て、体験者と事業者双方の条件をすり合わせ、作業が適しているかを見極めることができたことは、雇用成立の一助となりました。



また、双方に手当金・謝礼金が支給されることや、期間中、就労に関する支援機関がサポートを行うので、体験者と事業者がwin-winの関係で安心して体験・訓練を行えたことも大きかったです。同時期には、別の水産加工会社で高校卒業後の就職を見据えて同事業を活用したことで、最終的には会社のお墨付きをもらい、無事に入社できました。

４．小さな成功から地域創生へ

このように、県のサポート体制が充実していることや各職業に精通する県職員の方々との連携のおかげで、成功事例を積み重ねてこれました。今後も成功事例を通して障害のある方の社会参加への市民の理解促進を図り、地域の活性化と共に誰もが住みやすい室戸市になって欲しいと願っています。

出張講座のご案内

20歳を超え、学生生活や社会生活で急に身近になる「お酒」。
人との交流や仕事の関係で避けて通れない「お酒」。

お酒との上手なつきあい方を身につけませんか。

若い世代の方は、依存症が疑われる場合に相談につながりにくい、「相談窓口」を知らないケースが多いことが分かっています。(※) そのため、若年者や働き盛り世代を対象に、適正飲酒（正しいお酒の飲み方）や過度の飲酒（イッキ飲み含）のリスク、依存症への対応方法、相談先などについて、健康講座を実施いたします。
大学・専修学校等での共通教育の1コマで、入学ガイダンスで、企業における社員研修で、「アルコール健康障害予防」の出張講座はいかがでしょうか。
みなさまの団体内でご相談の上、まずはお問い合わせください。

※ 県が実施した R6 年度メンタルヘルスに関する県民意識調査

募集対象　大学・専修学校等の学生
働き盛り世代

令和8年度
高知県 アルコール健康障害予防講座 のお知らせ

お酒のトリセツ 知っちゅう？

出張講座料無料

高知県が平成三十年度から県内各地で実施している「アルコール健康障害予防講座」を令和8年度も出前講座として実施します。

開催日時／相談の上調整（土・日・祝可）
講座時間／60分～90分（応相談）



本講座のキーワード

（その他のご希望もご相談ください）

- ☐ アルコールが原因の疾患
- ☐ 正しいお酒の飲み方（厚労省の12の飲酒ルール）
- ☐ アルコールの「単位」
- ☐ アルコールと睡眠
- ☐ 急性アルコール中毒
- ☐ イッキ飲み
- ☐ アルコールハラスメント
- ☐ 女性の健康とアルコール
- ☐ 働き盛り世代の健康とアルコール
- ☐ 飲酒運転
- ☐ アルコールの分解
- ☐ アルコール依存症とは
- ☐ アルコール依存症の相談先
- ☐ アルコールによる社会的損失
- ☐ アルコール依存症当事者の体験を聞く
- ☐ アルコールパッチテスト（体質分析）の実施



笑って考えて、気付きのある楽しい講座です♪

出張講座にうかがいます！

お申込みはこちら⇨ 申込み

申込み専用フォーム

講座開催までの流れ　1 申込フォームより申込 → 2 担当者と打合せ → 3 日時・会場の決定 → 4 出張講座実施 → 5 アンケート回答

委託事業者（本事業を実施するもの）　NPO法人 AKKこうち（アディクション問題を考え行動する会こうち）

お問合せ先　kochi.akk.jp@gmail.com

高知県 ／ NPO法人AKKこうち（アディクション問題を考え行動する会こうち）

実施期間　令和9年3月末まで

第65回高知県精神保健福祉大会

手話通訳・要約筆記あり

「地域と共に歩む精神保健福祉」
～高知大学の取り組みとこれから～

入場無料

日　時　令和８年10月21日㈬

場　所　新来島高知重工ホール（グリーン）

プログラム

PM１:00　開会あいさつ
高知県精神保健福祉協会会長　數井　裕光
来賓あいさつ
高知県知事　濵田　省司
高知市長　桑名　龍吾
高知県医師会長　野並　誠二
PM１:20　表彰式
PM１:30　……　休　憩　……
PM１:45　講　演
「高知大学医学部附属病院精神科の活動に関して」
高知大学医学部附属病院　精神科病棟医長
森田　啓史
「児童・青年期分野の取り組み」
高知大学医学部附属病院　児童青年期精神医学
小松　静香
「認知症支援の取り組み」
高知大学医学部附属病院　精神科外来医長
河合　亮
PM３:00　……　休　憩　……
PM３:15　パネルディスカッション
「高知大学への期待とこれから
～ アンケートをもとに ～」
司会・進行
高知県精神保健福祉センター　所長
山﨑　正雄
高知大学医学部附属病院精神科　助教
赤松　正規
パネリスト
地域の精神保健福祉に携わる方及び
上記講演の講師３名
PM３:55　閉会あいさつ
高知県精神保健福祉協会副会長　橋詰　宏



第65回高知県精神保健福祉大会
アンケートにご協力お願いします

アンケートフォーム
■リンク：https://ourl.jp/PJo８g
■QRコード：

今年の大会には、たくさんの事業所さんが出張販売に来てくださいます！

出店予定事業所

- さんかく広場（クッキー、パン）
- 土佐あけぼの会※本誌２ページに掲載（お菓子類）
- 就労継続支援Ｂ型事業所ゆずのかけはし（クラフト小物、PPバッグ等）
- サスケ設計工房南国（古物（利用者の方がクリーニングした服・フィギュア・本等））
- 竹ぼうきの会（PPバンドバッグ、クッキー、チーズケーキ）
- 就労支援センター「らいふ」（焼き菓子、ゼリー、冷凍焼き菓子）
- せるぽ（布草履、一筆箋、ストラップ、アクセサリー、クリアファイル、小物雑貨）
- こだかさ障害者支援センター（木工製品）
- ぴーす（加工食品、PPバンドかご、布バッグ、木工製品）
- 特定非営利活動法人ら・ら・ら会 作業所ら・ら・ら（アートグッズ（缶バッジ、マグネット、シール、キーホルダー他））